

2003 年カレント 2 月号

フォンタナ平版連合印刷は新技術で開花し成長する

景気後退で多くの会社が減収している中で、積極投資をし、自己の将来の視点だけでなく、顧客の成功を視野に入れ、水なし印刷の発展を図っている会社があることに勇気付けられる。それはフォンタナ平版連合印刷で、ワシントン市の郊外、幅広い高品質商業ものをこなす水なし印刷業者である。

以前、工場責任の Brendan Connors と社長・Dale Ford を訪ねたとき(CURRENT 2001 年 6 月)、新台 74 カラット水なしオフセット印刷機を入れて興奮されていた。この機械では、納期も縮められ、安くでき、品質も損なうことなく、一層の顧客サービスを努められようと、Connors は言っていた。その通り、いや、それ以上のことができたのだ。2 色価格で 4 色物と言うインパクトを顧客にメリットを与えたのだ。



フォンタナ連合はあの話題の水溶性インキ、新台ハイデル・スピードマスター6色反転印刷機、新台カラット・インラインコーター、2 台の折機、新台中綴じ機を設備し、新しい拡大と可能性の時代に突入している。



新台 74 カラットと一緒に印刷部長 Ben Walker(左)と印刷オペレーターBob Cummings。インラインコー

ターでは直ぐにひっくり返して裏刷り印刷ができ、前準備時間の短縮ができる。色合わせ、見当合わせがたったの用紙 18 枚でできる。

以前から Ford はカラット・デジタル機へのインラインコーター付属を主張しつづけていた。2 ヶ月前、フォンタナ連合はインライン水性コーター付きの新台カラット 74 に入れ替え、新台ハイデル・スピードマスター6 色反転機、2 台の新台折機、中綴じ機を購入した。かなりのすばらしい装備が設置される。インラインコーターが加わったことで、新台カラット 74 での同社の 48 時間納期を大幅に削減してくれた。フォンタナ会長・Joe Fontana は、完璧な前準備と見当合わせに、18 枚の用紙ですませていることを誇りとしている。

オペレーターには、500 枚の印刷では前準備と予備紙として 100 枚をあてがわれている。昨年 1 年間ではた、それが 60 枚で済んでいる。

新台カラット機での注目点は、以前の機械では最高 12 ポイントの紙までで通せたが、20 ポイントの紙を印刷できるようになり、焼き直し時は 4 版全部再焼付けでなく、1 版だけ焼けば良くなった。これにより、再焼付けや、差し替え版の焼きには大変効率が上がる。

フォンタナ連合はスポット水性コーティングを 74 カラットか、水なし印刷機でデュポン社のサイレル版を使って施せるようになった。

フォンタナ連合は水性ユニットの通常プラン胴のところに一種の樹脂版を使っている。テストをした結果、速乾ニスの変わりに、スポット水性ニスで現実的に使えるのだ。

フォンタナ連合は KPG 社のスコーピオン版の試験運用をしていて、それを枚葉水なし印刷機に引き続き使うことになった。イメージング工程で大変良い流れになってくれ、東レ版より洗浄性が優れていると、Ford は言っている。また、バッチごとのばらつきもなく、その優れた品質と技術指導体制(サービス指導の良さ)により KPG 社を信頼しきっている。

KPG 社の新型プロセッサは本書を読まれる頃までに、納入されていよう。新しいプロセッサは回転ブラシで版を洗浄してくれ、下部にはクロムローラーがあり、版を安定的にプロセッサ内を搬送してくれる。

フォンタナ連合はスコーピオン版に、クレオ社のスタックカート FM スクリーン(修正版)、ドットサイズは 20 μ を使っている。最近、修正版スタックカートとヘキサクロームカラーの水なし版カレンダーを刷ったが、かなりの反響を呼んだ。極端に鮮やかな色を使い、スクリーン印刷で芸術品を刷っていたアーティストとが大変驚嘆してくれた。これは彼が今まで見た、最高の正確な再現精度をもつ印刷物だ、と言っていた。

フォンタナの見解によるとヘキサクロームの挑戦は、プリプレス側で全ての 6 色の最適値を決めることである。ヘキサクロームは現実的にはどんな頻度で使えるかは不確かだが、スタックカート修正版は標準スクリーン法となると感じている。それは水なし印刷の有益な特徴となり、水なしの価値を高めてくれる。前準備が早くなり、色合わせが早くでき、機上での寛容さが出てくる。「濃度が 10 ポイント下がったとしても、普通スクリーンのように、それに気がつくこともおきない。」と、フォンタナは言う。フォンタナ連合は常に、同

業他社との差別化を探している、と Connors はうなづく。修正版スタックカートは品質向上だけでなく、機上での色の安定性(ばらつき防止)と言う点を評価している。

差別化の他の分野としては、インキユーザーとして光る。1年半の間に、サンケミカル社は彼らに大接近してきて、水洗浄性 DriLith W2 水なしインキの改良の努力をしてきた。サンは自社インキ生産工場から数日間離れ、構内で DriLith W2 を作ってくれたと、Connors は報告してくれた。2年前、DriLith W2 が商業化されたときは、インキをサンの工場へ送り返してさらなる開発に供したが、今のやり方では大変なメリットが生じ、また、大変感激させられた。

2001年2月のCURRENTで報告したように、フォンタナ連合でのテストはドットゲインの増大を起こし、不十分な機械洗浄に終わったとしていた。当時、Connors は言ってくれたのは、サンケミは必要な改良をそのうちしてくれる確信をしていたので、その製品の否定的なことに触れることはしなかった。

水なし印刷の環境対応性はフォンタナ連合の顧客にとって大変重要な事項であり、DriLith W2 はその良さを維持してくれるものである。初期の DriLith W2 組成では7%の界面活性剤が使われていたものが、4%に落ちていると聞き、嬉しい限りである。Fordによると、効果的な洗浄とローラ乾燥には界面活性剤は少量、必要で、DriLith W2 を優れた製品と呼ぶ所以である。



自家製本を全て揃え、フォンタナ連合は印刷処理能力を大変高めている。

ドットゲインはもはや問題ではない。事実は逆である。2001年6月のCURRENTではフォンタナ連合は74カラットでは、通常の枚葉水なし印刷よりそのドットゲインは3~4%シャープに(少なく)出て、カラットで再版を刷ったとき、以前の全判で刷ったものと比べられ問題を生じる、と報告した。

その時点では、カラットのドットゲインは14~16%で枚葉機のは、16~19%であった。Fordが報告するには、現在では全工場にわたるドットゲインは13~14%となり、カラット

のでき映えと枚葉機のものとは合ってくれている。DriLith W2 とスコーピオン版のおかげでドットゲイン減少に繋がると彼は見る。

低いドットゲインの校正は問題ではない。フォンタナ連合は 2 種類のデュポン社製 WaterProof 製品を使っている。高品質な網点校正を必要なときは、クレオ・トレンドセッターのスペクトラムで感熱 WaterProof 材に焼きつける。

もう一つは、安価な高品質インキジェット AQ4 を使う。両システムともデュポン CV(色汎用度)を装備し、パントーン・マッチング・システム(PMS)のシミュレーション見本帳を作ってくれる。この見本帳はプロセスカラーから造成された PMS の近似値よりも特別調合色というものであり、顧客は最終的な色がどうなるか正確に分かる。

デュポンの WaterProof のユニークな長所は特別用紙・基板ではなく、実際の印刷用紙に直接転写できることだ。

会員諸兄のお分かりだろうが、フォンタナ連合が行っているすべては、新しい、改良技術に絶えず、投資していて。その推進の力は、顧客ニーズに応え、いや、その期待を超えようとする夢、そのものである。水なし印刷の品質、成果、環境信条に対する、この素晴らしいチームの長期的な、不断な公約決意に拍手を送りたい。

AGFA サブリマ新解決法は水なし FM スクリーニング特許のためのもの？

AGFA はハイブリッドスクリーニング新解決法、商業印刷向け全ての CTP にサブリマを発表した。これは Richard E. Stein のランダムスクリーニングと水なし印刷の特許(米国特許 5,283,154)に取り組んでくれたものと見る。

サブリマは二つの異なったスクリーニング技術を結びつけたスクリーニング技術である。AGFA バランスド・スクリーニング(ABS)と FM スクリーニングの混合法で、印刷機上で難なく連続再現でしてくれる。

サブリマは、可視光のガリレオ(緑紫色)、パラディオ(バイオレット)、ザイキャリバー45 と VLF サーマルセッター(シリコン光の GLV 技術)で使える。残念ながら、これらのどの AGFA の CTP も今まで水なしで使えなかった。装置に左右されるがサブリマは 210 線から 340 線まで、現行のアポジー・ワークフローで使える。ハイブリッドスクリーニング技術として、サブリマは標準解像度で普通の用紙でも大変細かい部分を再現する。調子のある画像でも連続再現してくれる。

サブリマは中間調では AGFA バランスド・スクリーニング(ABS)、AGFA の AM スクリーニングを使っている。それでいてハイライト部とシャドウ部は徐々に特別の AGFA 特許 FM スクリーニングへ転換させたものである。その結果、サブリマは印刷領域の 1 ~ 99% 点まで一貫して保持してくれる。これは前世代のスクリーニング法の大幅な改良であろう。

サブリマは印刷工程での変更を必要としない。高精細線の 210 線から 340 線でもハイライト部、シャドウ部とも特別の努力をしなくとも良い。さらに、RIP がシステムを計算し、自動的にドットゲインを補正する。何と！AGFA サブリマは 2400dpi で操作し、追加的な

リッピング時間は要しない。

できごと

今月の新加入会員は米国から 1 社、ブラジルから 1 社である。Bill Ford が社長の Fordable Color Printing 社は North Carolina 州 King 市にあり、Omni Adast 社の DI 機を入れている。ブラジル最初の会員、SetPrint 社は Codimag Viva 水なし印刷機を入れようとしている。

Mr. B. Andino、スペインのバルセロナ市にいる我々の通信員は新しい印刷機メーカー 2 社が最近の Graphispag 展で水なしラベル印刷機を展示してくれた。その間に、Codimag 社は既に 45 台もの水なし印刷機を市場に出し、確りと市場把握をしまっている。(T.I 訳)